研究主題

基礎的・基本的な学力と正しい人権感覚を身に付けた生徒の育成

～話合い活動の充実を通して～

あいさつ　　**校長　稲葉俊昌**

本校は、平成 28・29 年度の 2 カ年にわたり、熊谷市教育委員会から人権教育研究校の委嘱をいただき、「基礎的・基本的な学力と正しい人権感覚を身に付けた生徒の育成～話合い活動の充実を通して～」を研究主題として取り組んでまいりました。人権教育の目標は、一人一人の生徒が人権の意義・内容や重要性について理解し、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるようになることです。そして、そのことが様々な場面で具体的な態度や行動に現れ、人権が尊重される社会づくりにつながることが大切です。そのために本校では、「熊谷の子どもたちは、これができます！『４つの実践』と『３減運動』」を土台として、「当たり前のことが、当たり前にできる生徒」の育成を活動の指針として取り組んでまいりました。

本日、ここに研究の一端を発表いたしますが、皆様からの御指導をいただき、更に研究を実りのあるものにするよう努力してまいりたいと存じます。結びに、これまで指導をいただきました熊谷市教育委員会の先生方並びに関係の皆様に心より感謝を申し上げ、あいさつといたします。

Ⅰ　研究の概要

１　研究主題設定の理由

本校の生徒は、全体的に落ち着いており、授業にも真面目に取り組むことができる。しかし、自らの意見を積極的に述べたり、他人の意見を聞いてまとめたりすることは苦手である。また、周りへ配慮を欠いた言動なども時々見られる。その背景には、すべての生徒が同一小学校から入学してくることによる人間関係の固定化や、学習課題をつかみ、自ら判断する力の弱さ、自己肯定感の醸成不足などがあると考えている。

そこで、基礎的・基本的な学力を向上させる取組と、人権教育の目標である「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」ことのできる生徒を育成する意図的・計画的な取組を、話合い活動を重視した授業を実践していくことで、一人一人の正しい人権感覚を磨くことが重要であると考えた。

以上のことから、本研究主題を設定した。

２　研究仮説

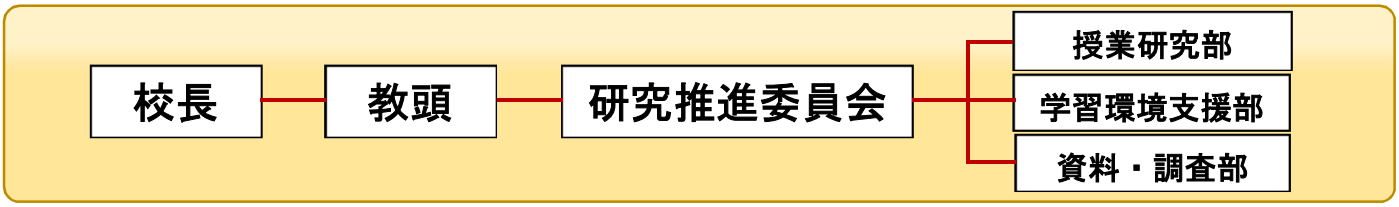
仮説１

授業のねらいと流れを明確にし、言語活動の充実を意図した授業を行い、自発的な学びを促す環境を整えることで、基礎的・基本的な学力を身に付けた生徒を育成できるであろう。

仮説２

見える化を意識した道徳教育や、話合い活動を重視した人権感覚育成プログラムの実践を行うことで、正しい人権感覚を身に付けた生徒を育成できるであろう。

３　研究組織



４　研究の構想

学校教育目標「郷土を愛し、２１世紀を強く正しく生きる生徒の育成」

【目指す生徒像】進んで学ぶ生徒　心豊かな生徒　進んで鍛える生徒
【別府中生徒の心得】当たり前のことが当たり前にできる生徒
【別府中生徒の合い言葉】３つのＣ（チャンス・チャレンジ・チェンジ）

【研究主題】基礎的・基本的な学力と正しい人権感覚を身に付けた生徒の育成
～話合い活動の充実を通して～

研究の主な内容

授業研究部

■確かな学力を育むための手立ての立案・検討
①学習指導案の形式を統一
②板書表示の統一
③校内漢字検定、校内数学検定の実施
④一人一授業の実施

■言語活動の充実を図る手立ての検討（共通）
・小グループによる話合い活動の充実

学習環境支援部

■一人一人の学力を向上させる取組
①学習支援コーナーの設置
②「マイ勉」用プリントの提供
③授業の心得の掲示と徹底

■仲間とともに自主学習に努力する取組
①全校「マイ勉」強調期間の実施
②プチ「マイ勉」強調期間の実施

資料・調査部

■別府中生活アンケートの実施
・授業について

基礎的・基本的な学力の向上

正しい知識と人権感覚の育成

話合い活動の充実

研究の主な内容

授業研究部

■人権教育・道徳教育に関する授業の計画立案
①人権感覚育成プログラムの活用
②道徳教育の見える化
③地域と一体となった取組

■言語活動の充実を図る手立ての検討（共通）
・小グループによる話合い活動の充実

学習環境支援部

■仲間とともによりよい生活を作る取組
①人権感覚育成プログラムの計画的な実施とその結果の掲示
②人権教育コーナーの充実

資料・調査部

■別府中生活アンケートの実施
・生徒の意識について

Ⅱ　研究の内容

授業研究部

1　確かな学力を育むための手立ての立案・検討

①学習指導案の形式を統一

(4) 学校研究課題との関連
① 研究課題
基礎的・基本的な学力と正しい人権感覚を身につけた生徒の育成～話合い活動の充実を通して～
② 学校研究課題にせまる視点
・板書を工夫し、本時の目標や授業の流れを明確にすることで、生徒が見通しをもって学習できるようにする。
・呼名時は、「さん」付けで呼ぶ。
・「話型カード」を活用したグループ　生徒の主体的・協同的な態度を醸成

5　人権教育上のねらい（普遍的な課題「人権　話合いの中で、自他の考え方の違いとそれぞれ　尊重の精神を養う。

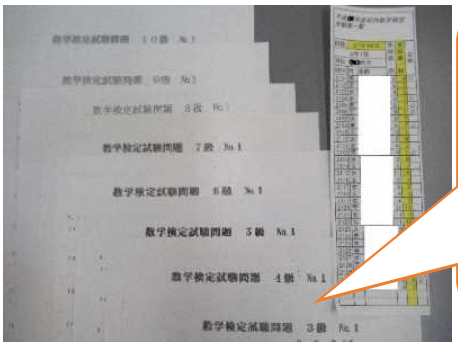
6　人権教育上の視点
話合い活動に積極的に関わることで、コミュニケーション能力を高めさせる。（技能）

学校研究課題に迫る視点、人権教育上のねらい、人権教育上の視点を明記した。

②板書表示の統一

授業に見通しをもって取組ませる工夫

③校内漢字検定、校内数学検定の実施



読み書きする力と計算力向上のための取組み（中学1年から3年まで、継続して実施）

④一人一授業の実施

教員全員が必ず年1回、授業を公開する「校内授業研究会」の実施。熊谷市教育委員会等から指導者を招聘して、各教科での視点、人権教育上の視点から見た授業展開について研究協議した。

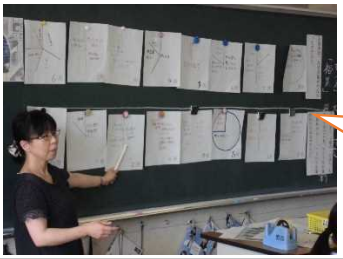
2　人権教育・道徳教育に関する授業の計画立案

①人権感覚育成プログラムの活用

年2回の人権旬間では、人権感覚育成プログラムを取入れた授業を全クラスで実施。

全校集会で、人権の正しい知識について学習した。

②道徳教育の見える化



道徳授業参観や、生徒の心の変容が見える授業実践。実生活においては、「別府中生徒の心得」のアンケート結果から考察した。

別府中　生徒の心得　～当たり前のことを当たり前に～

1 あいさつは　先にするのが・・・・・
2 時間は　守って生活・・・・・
3 授業中　真剣に受けるが・・・・・
4 清掃は　きれいに終了・・・・・
5 食事は　きれいに食べるが・・・・・
6 服装は　正しく着るのが・・・・・
7 約束は　守って行動・・・・・
8 間違いは　すぐに訂正・・・・・
9 ありがとう・ごめんなさい　素直に言えるが・・・・・
10 友だちは　大切にするのが・・・・・・
11 朝ご飯　しっかり食べるが・・・・・
12 呼ばれたら　「はい」と返事が・・・・・
13 部活動　がんばることが・・・・・
14 困っていたら　優しくするのが・・・・・
15 悪いこと　悪いと言えるが・・・・・
16 良いことは　進んでやるのが・・・・・
17 持ち物は　必ず確認・・・・・
18 悩んだら　人に相談・・・・・
19 いじめは　絶対しないぞ・・・・・
20 嫌なこと　誰もが同じだ・・・・・

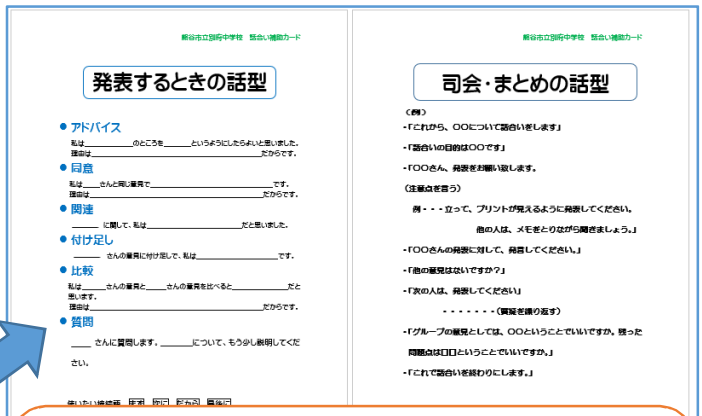
③地域と一体となった取組

地域の方とともに「別府沼清掃」

別府小の先生とともに「人権教育合同研修会」

3　言語活動の充実を図る手立ての検討

小グループ（２～４人）による話合い活動の充実



熊谷市立別府中学校　話合い補助カード

発表するときの話型

- アドバイス
  私は＿＿＿＿のところを＿＿＿というようにしたらよいと思いました。
  理由は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿だからです。
- 同意
  私は＿＿さんと同じ意見で＿＿＿＿＿＿＿＿です。
  理由は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿だからです。
- 関連
  ＿＿＿に関して、私は＿＿＿＿＿＿＿だと思いました。
- 付け足し
  ＿＿＿さんの意見に付け足して、私は＿＿＿＿＿＿＿です。
- 比較
  私は＿＿さんの意見と＿＿さんの意見を比べると＿＿＿＿＿だと思います。
  理由は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿だからです。
- 質問
  ＿＿さんに質問します。＿＿＿について、もう少し説明してください。

熊谷市立別府中学校　話合い補助カード

司会・まとめの話型

（例）
- 「これから、OOについて話合いをします」
- 「話合いの目的はOOです」
- 「OOさん、発表をお願い致します。」

（注意点を言う）

例・・・立って、プリントが見えるように発表してください。
他の人は、メモをとりながら聞きましょう。」

- 「OOさんの発表に対して、発言してください。」
- 「他の意見はないですか？」
- 「次の人は、発表してください」

・・・・・・・（質疑を繰り返す）

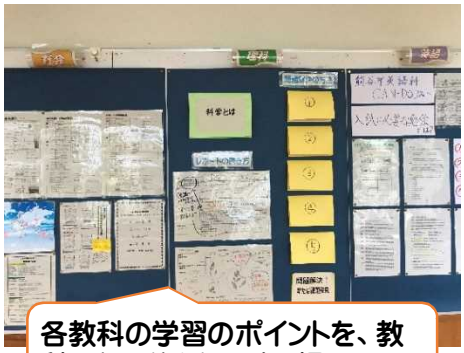
- 「グループの意見としては、OOということでいいですか。残った問題点は□□ということでいいですか。」
- 「これで話合いを終わりにします。」

意図的に設定している話合い活動。友達とコミュニケーションをとりながら、自分の考えを伝え、相手の考えに耳を傾けて意見を尊重する。話合いを円滑に進めるための補助カード「話型カード」やホワイトボードも全ての教室に用意した。

学習環境支援部

1　一人一人の学力を向上させる取組

①学習支援コーナーの設置



各教科の学習のポイントを、教科ごとに分かりやすく掲示

②「マイ勉」用プリントの提供

別府中学校の自主学習
毎日の「毎」＋私の「MY」＋勉強＝マイ勉

③授業の心得の掲示と徹底

「声の大きさを意識して発言する」など、生徒の実態に応じて変更

2　仲間とともに自主学習に努力する取組

①全校「マイ勉」強調期間（年４回）の実施

定期テスト前の2週間は、全校で取組む「マイ勉」強調期間。学級の仲間で声を掛け合い、励まし合いながら取組んでいる。

②プチ「マイ勉」強調期間の実施

定期テスト期間外には、学年ごとに「マイ勉」強調期間を設定。（プチ「マイ勉」強調期間）　各学年委員会が実態に合わせて取組を工夫している。

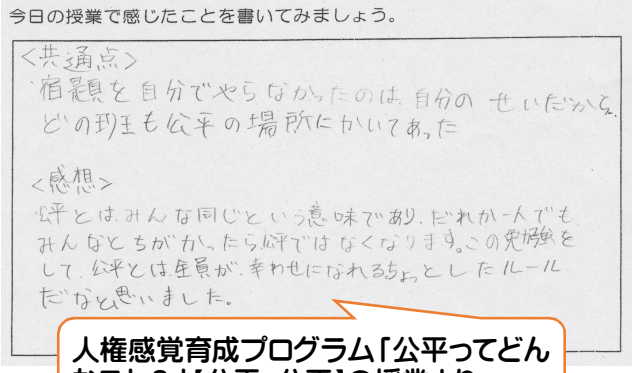
③個に応じた支援

生徒のノートは担任が必ずチェックし、朱書きをするなど、生徒への支援を積み重ねた。学習が苦手な生徒へは、学習に取り組む習慣が身に付くよう、励ましの言葉がけも行っている。

３ 仲間とともによりよい生活を作る取組

①人権感覚育成プログラムの計画的な実施とその結果の掲示

人権感覚育成プログラムに基づいた授業で、自分の意見を認めてもらう喜びや、友達の様々な意見に触れて自分の考えを深めたり、仲間のよさを見つけたりすることができた。


今日の授業で感じたことを書いてみましょう。

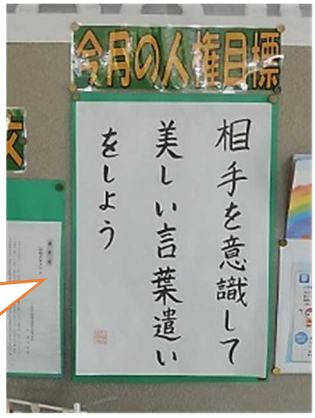
<共通点>
宿題を自分でやらなかったのは、自分のせいだから。
どの理由も公平の場所にかいてあった

<感想>
公平とは、みんな同じという意味であり、だれか一人でもみんなとちがかったら公平ではなくなります。この実験をして、公平とは全員が、幸わせになれるちょっとしたルールだなと思いました。

人権感覚育成プログラム「公平ってどんなこと？」【公平・公正】の授業より

②人権教育コーナーの充実

人権教育コーナーでは、生徒の人権メッセージや人権標語のほか、熊谷市のいじめ撲滅宣言、人権に関する刊行物や詩などを掲示した。



生徒会本部役員が話し合って決めている今月の人権目標

資料・調査部

１ 別府中生活アンケートの実施

①実施時期

平成２８年７月、平成２９年７月の２回

②対象生徒

平成２８年７月の１・２年生と、平成２９年７月の２・３年生（それぞれ同じ生徒で比較）

③アンケート内容

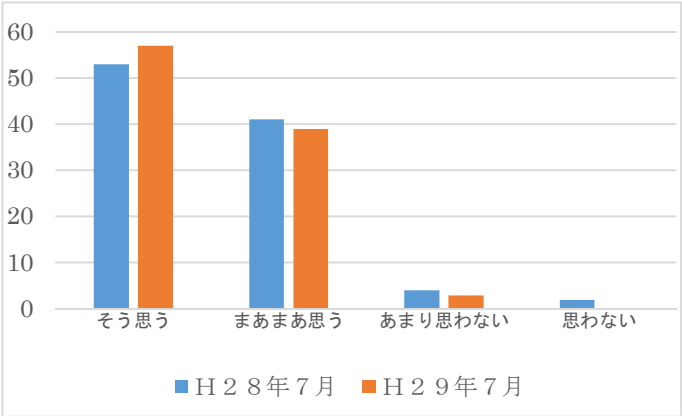
自分自身のこと、他者とのかかわりを中心に全３１項目で実施

〇授業中、みんなで話し合って決めたことを守ったり、協力したりしている
〇集団の一員として多くの人に支えられていることに気付いています
〇差別を許さない態度を身に付けています
〇自分にはよいところがあると思います
〇クラスや学校の役に立っていると思います

などについて、４段階（そう思う、まあまあ思う、あまり思わない、思わない）で丸をつける形式で行った。

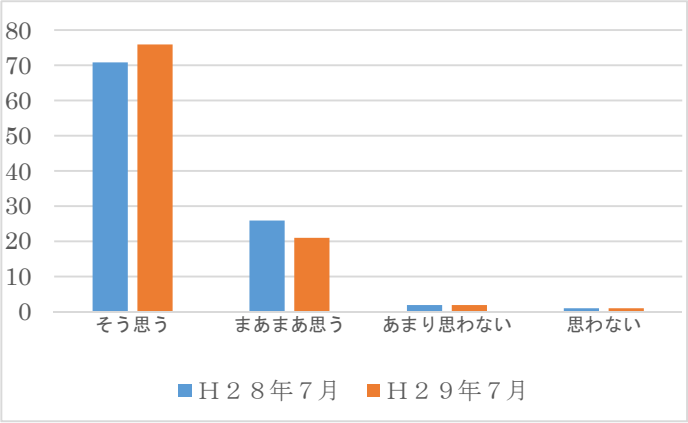
２ アンケートの結果と分析（例）

①様々な価値観を尊重しようとする態度を身につけています



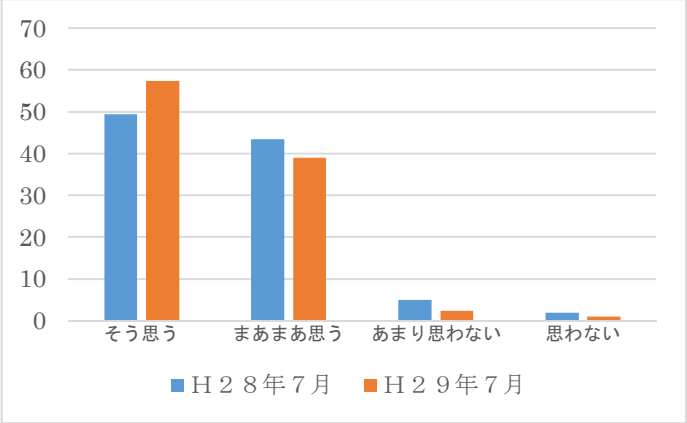
１回目に比べて「そう思う」の割合が増えた。このことは、ペア学習やグループ学習などの話合い活動を通して、自分だけではなく他の人の考えを認め、尊重することのできる生徒が増えた結果だと考えられる。

②人は誰も一人一人価値ある存在です



１回目に比べて「そう思う」の割合が増えた。グループ学習などの話合い活動を取り入れた授業、道徳授業の確実な実践、地域と一体で行う体験活動、「マイ勉」強調期間での取組などを通し、「自分の大切さとともに他の人の大切さ」を認めることのできる生徒が増えたと考えられる。

③誰とでも分け隔てなく協力して取り組むことができる



１回目に比べて「そう思う」の割合が増えた。このことは、グループ学習などの話合い活動でコミュニケーションをとる機会が増えたことや、道徳授業や人権に関わる取組、活動を通して「人は皆平等である」といった人権感覚が身に付いた表れと考えられる。

Ⅲ　研究の成果と課題

１　成果

・授業のねらいと流れを明確にすることで、生徒が見通しを持ち、自ら進んで課題に取組むことができるようになった。
・話合い活動を円滑に進めるための補助となる「話型カード」の活用により、どのグループも自分の考えを積極的に伝えられるようになってきた。
・話合い活動によって、学力向上の視点では、生徒が学び合うことで一人一人の理解が増し、生徒が考えを共有することで学習内容を深めることができた。人権感覚の視点では、生徒一人一人のコミュニケーション能力を伸ばすことや、友達の意見を尊重する態度を身に付けることができた。
・「マイ勉」記録表による「見える化」で、生徒の学習への意欲付けができた。生徒会本部役員の呼びかけや、各学年委員会のプチ「マイ勉」強調期間への取組により、自発的に家庭学習を行う生徒が増えた。
・話合い活動を重視し、人権感覚育成プログラムを計画的に実施することで、生徒が感想を共有し合い、多様な意見を認め合い、自らの意見を深めることができた。このことから、生徒の**人権に対する正しい知識と人権感覚を育成できている**と考えられる。
・埼玉県学力学習状況調査の結果を検証すると、学力を伸ばした生徒の割合が、各教科で７割を越え、特に、２年生の数学、３年生の英語、全学年の国語において８割を越えることができた。また、国語と数学の学力の伸びが、２・３年生ともに３（学力レベルの３６段階で表した値）であった。このことから、生徒の**基礎的・基本的な学力が確実に身に付いている**と考えられる。
・全国学力学習状況調査の生徒質問紙を検証すると、「自分には、よいところがあると思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、全国平均よりも１０ポイント以上高い数値がみられた。さらに、本校で行った別府中生活アンケートの結果と合わせると、生徒の自己肯定感の高まりや、「自分の大切さとともに他の人を大切にすること」のできるようになっていることがわかる。このことから、**正しい人権意識を身に付けることができた**と考えられる。

２　課題

・学びを深めるための効果的なグループ編成のあり方について、今後も継続して研究していく。
・自ら学習を進める習慣は身に付いてきているものの、個々の取組内容には大きく差があるため、教師が一人一人に応じた支援を工夫することが求められる。
・「クラスや学校の役に立っていると思います」のポイントは伸びているが、あまり思わない・思わないの割合が、他の項目に比べると多い。教師の視点では、どのクラスの生徒も協力的であり、各学級の役に立つよう取り組んでいる。そのため、生徒一人一人の自己肯定感をさらに高められるように、一人一人の活躍の場を多く作っていく。
◎研究の中での課題を、今後も人権教育の取組に生かし、授業や実践の中で継続して取り組んでいくことが重要である。